

継続
発展

指針1 鑑賞・体験機会の提供

情報発信拠点施設の効果的な活用

- マンガ・アニメ作品の原画や絵コンテ、世界観を再現した展示など、年齢や嗜好を問わず、ファミリー層からファン層まで楽しめる企画展を開催
- 作品制作者との交流など、様々な楽しみ方を提供
- 本市のマンガ・アニメ関連施策の情報を集約し、効果的に発信

創作・発表意欲を高める

- 情報発信拠点施設を中心に、誰もが参加できるマンガ画材の使用体験、デジタル作画など、マンガ制作の基礎講座を開催
- 全国から作品を公募するマンガコンテストを実施

〈国内外に広がる海賊版サイトの被害〉

- デジタル技術の発展とネットワーク化の進展により、日本のコンテンツの著作権等の侵害行為が国外にも広がっている
- 国は啓発サイトでの発信を行うとともに、行政計画で施策の方向性を示している
- 本市も海賊版サイトを容認しない姿勢を示すとともに、啓発活動に取り組む

継続
発展

指針2 クリエーターの育成支援

プロから学べる体験機会の提供

- 企業や団体と連携し、プロによるマンガ・アニメに関連する様々な体験講座(マンガ制作の講座に加え、アニメーション制作やデザイン・イラスト制作など)を実施
- プロの視点に触れる機会、プロと交流できる機会を創出

子どもの興味を引き出す

- マンガ家やアニメーターに関連する職業講話やワークショップ、マンガ講座などの様々なアウトリーチを実施
- 総合学習における情報発信拠点施設の活用推進
- 職場体験の受入による、働くことや社会について学ぶ機会を提供

〈マンガ・アニメ分野と急速に進化するデジタル技術〉

- AIやNFT、メタバースといった新たなデジタル技術がマンガ・アニメ分野にも大きな影響を与えている
- 国はデジタル技術を活用した文化芸術活動の推進を重点取組に据え、有効性と課題を検証している
- 本市も産学官の連携により、時代の潮流を見極めながらデジタル技術の活用を検討していく

新規

指針3 多分野への活用推進

産学官連携によるビジネス活用推進

- 産学官が連携し、そのメリットや手法、好事例を紹介するとともに、実用にあたって必要な知識・情報を市内の民間事業者向けに発信
- 関連企業の誘致を進めると同時に、市内企業・団体同士のさらなるつながりを生み出す

生活に関する情報発信への活用

- 国籍や障がいの有無、年齢、性別などの特性に応じた情報発信ツールとしての活用を図る
- 生活と密接に関わる情報を、わかりやすく伝えるマンガやアニメを制作し、その有効性を示す

〈実用的なマンガ・アニメの制作〉

- 実用的な用途をもった「実用マンガ」の取り組みが広がっている
- 会社案内や製品の説明のほか、医療機関でも活用が進んでいる
- 本市も情報発信ツールとしてマンガ・アニメの活用を図っていく